

第2学年2組 美術科学習指導案

日 時 平成29年10月27日(金)
場 所 玉湯中学校 美術室
授業者 教諭 本田 紀子

1 題材名 心でとらえたイメージ ～ つながる、広がる形 ～ A表現(1)(3) B鑑賞(1) A

2 題材のねらい

イメージとオノマトペの相互関連をもとに、形や色・材料の効果、版の特性の生かし創造的に表現する。

3 題材設定の理由

(1)題材について

本題材は、言葉からとらえたイメージを形や色・材料の効果を生かし、コラグラフの技法を用いて表現するA表現(1)(3)の内容である。この題材については、次の4つの視点でとらえている。

〔言語への興味を高めるために〕

数年前から美術科における言語活動とはどうあるべきか考えてきた。様々な場で、中学生らしくきちんとした言葉で伝えるよう指導することが多い中、もっと楽しく言語に興味をもてないものだろうかと感じてきた。そんな時オノマトペという言葉に興味をもち、調べているうちに様々な方向に広がる深いものだという事に気付いた。また、幼い頃言葉を覚える過程をたどってみると確かに「オノマトペは心の声」であったと思う。これを美術の活動に生かす方法はないかと考えたことがきっかけである。心でとらえたものをオノマトペを利用して表現することで、言語への関心を高めたいと考える。

〔イメージをもつこと〕

色や形をイメージするとき、ワークシート等で言葉に置き換えてイメージさせることがしばしばある。想像力は、視覚、聴覚など様々な感覚をもとに湧いてくる。しかし、頭にはイメージはあるが、どう表現していいかわからないことも多い。イメージは、作品づくりの段階から鑑賞に至るまでずっともち続けさせたい。よって本題材では、イメージをもつことで、「心でとらえたもの」と「言葉(オノマトペ)」と「表現」のトライアングルをスムーズに連動させることで、創造力を育成することにつながると思う。

〔抽象的な形、色、材料の広がり〕

抽象的なものの見方には、「見えないものを感じて表す」難しさがある。しかし同時に、形や色、材料の使用を通して、純粹に自分の想いを表現することができる面白さもある。

ここでは、単なる形や色の遊びや偶然ではなく、自分の知性と感性でバランスを取って抽象化しようとする意図的な作品を目指したい。また、次のような理由からコラグラフ版画を用いることにした。第1に、版の効果を検討した材料の選択や、刷った後からもやり直しができるなど、イメージに合わせて試行錯誤できる。第2に、刷った作品と版の作品の2種類ができる。更に刷った後の版は、修正を加えて半立体へと変化することも可能である。コラグラフは、中学生美術科として基本的な取組がわかった1学年から、より深め柔軟に活用していこうとする追究力をつけさせたい2学年には相応しい制作方法だと思う。

〔他教科・領域との関わり〕

オノマトペは、美術科だけでなく多方面に広がっており、他教科・領域で活用することも可能である。例

えば体を動かす時、オノマトペを思い浮かべながら動くリズムが取りやすい。オノマトペから身体の動きをイメージすることは、保健体育科での創作ダンスに応用できる。また音楽科で音やリズムを表す時、オノマトペだと理解しやすい場合がある。詩や短歌、食の表現にも有効である。生徒が体験したオノマトペは、様々な教科や領域に広がりながら、作品づくりに深まりが出るとよいと感じる。以上の点からこの題材を設定した。

(2)生徒について

… <個人情報保護のため省略> …

(3)指導について

本題材の指導に当たっては、5つの工程に分けて工夫をしたい。

第1次：導入においては、オノマトペに関心をもたせるために、簡単な「擬音語」「擬態語」から始めて、抽象画鑑賞からオノマトペに置き換えるなど次第に深めていく内容へと発展させたい。様々な分野で考えられるよう参考例のもち方を吟味したい。

第2次：心でとらえたものを「オノマトペ」に置き換えていく工程では、最初にイメージしやすい音や、生徒達が体験した身体の動きから発想させる。ここでは、あまり考えすぎず、第一印象を優先しリズムカルに線や形を起こしていく練習をさせたい。

第3次：主題となるオノマトペから連想する線や形を生み出す工程では、基本となる線や形を磨く作業(変化する、繰り返す、つなげる、重ねる等)をするが、グループ活動を取り入れることで発想の模索段階に役立てるようにしたい。そして次の自分の主題をもとにしたオノマトペと形に誘導できるとよいと考える。

第4次：材料や用具を選択し使用する工程では、まず自分の主題にあった材料・用具を探し出すことが重要である。視覚や触覚等の感覚器官を働かせ、イメージにぴったりの材質を選択できるよう施す。また、コラグラフの特徴を理解させた上で、試行錯誤をさせることを忘れないようにしたい。

第5次：お互いの作品を鑑賞する工程では、友達の作品や創作途中の取組などを認め合わせる。形や色・材料の美しさ、おもしろさについて、お互いの個性や感覚の違いを感じ、相互に刺激しあえる時間にしたい。

「見えないものを感じ取る力」「見えないものを伝える方法」については、非常に多くのエネルギーが要求されると思う。従って、最初ある程度のトレーニングは必要であると考え。今回の題材では、導入と発想段階において、心と言葉と表現が連動できるようしっかり時間を取りたい。そして、「感じる⇄考える⇄つくる⇄また感じる⇄また考える⇄またつくる」の繰り返しの中で、作品の深まりをねらいたい。また、本校の研究主題「互いに認め合い高め合っていく生徒の育成～関わり合う場を生かした授業づくり」も意識し、主に第3次、第5次において、関わり合う場を生かした生徒の主体的な学習が行われることを目標にしたいと考える。

松江市美術部会の研究テーマは、「自ら主題を生み出し、自己を豊かに表現する生徒の育成～考えやイメージをまとめるための手立ての工夫～」である。この研究テーマも加味しながら、オノマトペを利用してイメージした形をどうまとめていくか学んでほしいと思っている。

4 本題材の学習活動に即した評価規準

評価の観点	各観点の評価規準	評価方法
美術への 関心・意欲・ 態度	・言葉との関連でとらえたイメージを抽象的に表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり、材料や用具を生かしたりしようとしている。 ・美術の制作活動の喜びを味わい、言葉との関係で捉えた版画作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさ、表したいイメージをもとにした主題と創造的な表現の工夫などを感じ取り、味わおうとしている。	ワークシート 自己評価 話し合い活動
発想や構想 の能力	・言葉との関連で捉えたイメージをもとに主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせや、構成の仕方など考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	スケッチブック ワークシート
創造的な技 能	・感性や想像力を働かせて材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え見通しをもったりしながら、創造的に表現している。	作品 ワークシート
鑑賞の能力	・感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、表したいイメージをもとにした主題と創造的な表現の工夫などを感じ取り、味わっている。	発表会 ワークシート

5 題材指導計画と評価計画 (全12時間 本時4/12)

時 数	●学習のねらい ○学習活動	評 価				
		関	発	創	鑑	留意点【評価方法】
2 h	第1次〈導入・課題把握〉 ●オノマトペという言葉について関心をもつことができる。 ○オノマトペを感じよう！(様々な分野でのオノマトペを感じ取る) ○オノマトペから広がる作品について考える。(抽象画作品鑑賞) ○作品行程を理解する。(学習目標、制作方法、グループ学習について理解する)	○			○	関① 様々な分野のオノマトペについて関心を持ち、言葉との関係で捉えた作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさ、イメージをもとにした主題と創造的な表現の工夫などを感じ取り、味わおうとしている。【観察、ワークシート】 鑑賞① 感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、オノマトペから受ける主題と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。【ワークシート、発音、鑑賞の様子】
1 h	第2次〈構想1〉 ●主題を生み出し、どのような形がふさわしいか練ることができるようにする。 ○オノマトペから、線や形を生み出す。(基本形)	○		○		関② 言葉との関連でとらえたイメージを抽象的に表現することに関心を持ち、主体的に主題を生み出そうとしている。【スケッチブック、態度】 発① 言葉との関連で捉えたイメージをもとに線や形を生かし、抽象的に表現しながら主題を生み出している。【ワークシート】

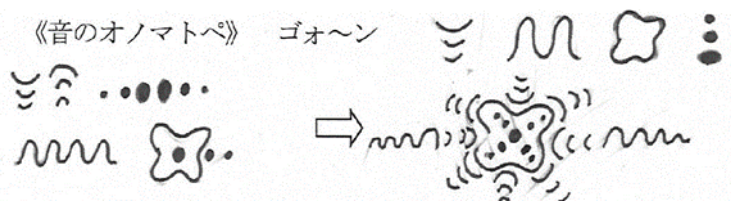
2 h (本時 1/ 2)	<p>第3次〈構想2〉</p> <p>●主題をイメージしながら、構成方法を知り、自分の作品に活かすことができるようにする。</p> <p>○線や形の構成の仕方をさがしてみよう。(形の変形、つながり)</p> <p>○自分の主題をもとにしたオノマトペと形について、構成しよう。</p>	○	○		<p>関③主題をもとに、主体的に心豊かな表現の構想を練ろうとしている。【観察】</p> <p>発②グループ活動で得たことなどから主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせを考えたり、構成の仕方等を考えたりしている。【グループ作品、個人作品】</p>
6 h	<p>第4次〈制作〉</p> <p>●版の特徴を理解し、自分の表現意図に合う材料や色等を工夫することができるようにする。</p> <p>○主題の形に合った材料を探して版制作をし、刷る。</p> <p>○版と刷った作品を修正する。</p>		○	○	<p>発③主題をもとに、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ろうとしている。【作品】</p> <p>創①感性や想像力を働かせて材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え見通しをもったりしながら、創造的に表現している。【作品】</p>
1 h	<p>第5次〈展示・鑑賞〉</p> <p>●友人の作品から表現の意図や工夫などを感じ取ることができるようにする。</p> <p>○制作をふり返り、鑑賞カードに作品の主題や制作の意図・創意工夫を記入する。</p> <p>○友達の作品と評価カードを鑑賞する。</p>			○	<p>鑑②友人の作品の造形的なよさや美しさ、表したいイメージをもとにした主題と創造的な表現の工夫などを感じ取り、味わっている。【感想カード】</p>

6 本時の学習

(1)本時の目標

- ・主題のオノマトペから生み出した線や形を構成する方法を知り、自分の作品に生かすことができる。

(2)本時の展開

	生徒の学習活動	教師の支援
導入	今日のめあて	○めあてを黒板に掲示し、確認させる。
	班の形を使って、オノマトペにぴったりな形に構成してみよう！ ～方法カードを参考にして～	
	<p>○方法カード「くりかえす」「重ねる」「変化」「鏡」の使い方を知る。</p> <p>○グループ学習の約束と流れを確認する。</p>	<p>○関心が高まるよう、視聴覚機器の準備を整えておく。</p> <p>○参考作品は、わかりやすく簡単な形を使用するが、イメージが広がりやすいよう一つの形から何通りかの方法を提示する。</p> <p>例 《音のオノマトペ》 ゴォ～ン </p> <p>○グループでの作業がスムーズにいくよう、約束や流れ、時間などを視覚で提示する。</p> <p>約束1：みんなの形を利用しよう。</p> <p>2：友達の考えや意図をしっかりと聞き、プラス言葉をかけよう。</p>
展開	<p>○線や形の広げ方を考える。</p> <p>○「オノマトペ」をイメージしながら、<u>方法カード</u>に従って自由に形を構成してみる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>くりかえし 鏡 変化 重ねる</p> </div> <p>・個人→ペア→グループで検討する。</p> <p>・ペア→グループで検討する。</p> <p>○「オノマトペ」に近い形を決定し、大ホワイトボードに描く。</p>	<p>○試行錯誤がしやすいように、班に大ホワイトボード・各自に小ホワイトボードを用意する。</p> <p>○主題となる「オノマトペ」は、イメージの根本には置くが、あまり縛られず自由に広げることを大切にさせる。</p> <p>○個人で考えにくい班は、ペアで考えることをすすめる。</p> <p>○方法カードは、重複していくと形がより広がっていくことを知らせる。形の深まりを感じる班があれば、全体への参考にさせる。</p> <p>○オノマトペと形の相互関係を考えながら、なるべく試行錯誤させる。</p> <p>○構成していく段階で、主題のオノマトペは変更してもよいことを知らせる。</p>
まとめ	<p>○他の班の工夫を知る。</p> <p>○振り返り</p> <p>自己評価と感想を書く。</p> <p>○次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○他班のオノマトペの形について、どんな方法を使ってできているか考えさせることで振り返りをし、今後の制作をさらに深めていくことを伝え、次時へのつなぎをする。</p>

(3)本時の評価

	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する生徒への支援	評価方法
関心・意欲・態度	オノマトペと形に興味を持って、意欲的に学び、発展的に主題や形を生み出そうとしている。	オノマトペと形に興味を持って、主題や形を生み出そうとしている。	概念的な形から少しずつ興味を持たせるよう施す。	観 察
発想構想の能力	方法カードに従って、たくさんの形を創造的に構成しようとしている。	方法カードに従って、形を構成しようとしている。	簡単な繰り返しなどからはじめて、発展できるよう助言する。	ワークシート ホワイトボード

(4)授業研究の視点

- ・グループでの活動は、線や形を広げる方法を知り、自己表現を助け制作への意欲付けになったか。